ポットラック新聞
かわら版

みなと祭おつかれさまでした！

今年も夏を彩る祭りが無事に終了しました。
降ったりやんだりの小雨の中でしたが熱気はムンムン！
まち協スタッフも各町内で踊りに参加したので、その様子をお届けします。

はじめてのみなと祭

みなと祭を終えてすぐいつもの日常に戻らなきゃいけなかったけれど、お祭りが終わった後も私の頭と身体はお祭りの中にいた。私は6月の頭から1ヶ月、高六町内会で太鼓の練習に参加させてもらい、初めて山車を引いてお祭りに出た。練習中から高六のみなさんの太鼓愛とお祭り愛を感じていたので、本祭はどんなものなんだろうと待ち遠しかった。前夜祭、本祭ともに天候が安定しない時間が続き、本祭の山車の時間はなんとか雨が降らずにすんだ。悪天候の中でもお客さんで埋まる道路沿いを横目に、駆け抜けていく山車と高六の法被を着た人々。集まる視線に比例して昂っていくみんなの気持ちと普段の港まちからは想像が付かないほどの熱気に、これが祭りか！とみるみる気合いが入る。あっという間に江川線を駆け抜け、つどいの広場へたどり着き、様々な色の法被を着た人々が肩を組み集まる景色はとても美しかった。お祭りを通して交わされる人々の気持ちが心地よい。つどいの広場で予定されていた演目が終わり、元町公園に帰って花火を見るのかなと思いきや、太鼓を延々と続ける高六のみんな。どんだけ太鼓好きなんだ！と笑ってしまったけど同時に嬉しくもあった。太鼓を叩くことが目的にあり、老若男女関係なく共に楽しみ続けている高六のみなさんのことをとても尊敬します。楽しかった！

文：イサジ

みなと祭に並ぶ屋台

道路に並ぶ600軒近い屋台の数々は、みなと祭のひとつの楽しみ方。一週間前から道路に貼られるガムテープの商品名に、どんな屋台が来るのか想像していました。踊りの練習が子どもたちで賑やかになる港元に踊りで参加させてもらった本祭の翌日、「今年は孫も来なかったから、屋台も見に行かずに家族と二人で過ごした」と話してくれた方が。「祭りっていろんなものが売ってるから、それを孫に買ってあげながら歩くのが楽しいんだけど、大きくなっちゃって。花火もうちから見てたけど、でもやっぱり見に行けばよかった。だって楽しいじゃない」祭りの定番から流行を反映した商品まで、目移りしてしまう数の屋台に気持ちも踊ります。普段のお店が行う特別営業は売り子さんが加勢して大賑わい！いつものメニューもお祭り仕様になっていると美味しさもまた格別です。花火を見ながら、労いあいながら、食べ歩いたり持ち帰ったり。皆さんは祭りをどう過ごされたでしょうか。

文：大西

イラスト：たもとまさこ

みなと祭、どこを見るか、どこから見るか

今年もみなと祭が無事終わりました！みなさま、毎度のことですが本当にお疲れ様でした！昨年は港本町一丁目の踊り子として参加し、今年は二号地東部。2年目ということもあり、踊りもスムーズ（？）にできるようになってきてとても楽しむことができました。花火音頭にはだいぶ苦戦しましたが…。さて、今年は港まちポットラックビルにて「もうすぐみなと祭がはじまりますね」と題し、昨年のお祭りの様子を展示しました。展示を開始してからもまちのみなさまからアドバイスをいただき、新しい試みとして、全町内の太鼓連のハッピを展示しました。音があった方が雰囲気が増すよ！と音源も貸してくださったり。なんだかみんなでつくる展示って感じがして、ハッピが並んだ姿を見て思わず涙してしまいました…。展示内容もとても好評で、写真に自分や知ってる人の姿を探す方や、どこどこのハッピが好き～とかみんなで推しを言い合っているのを横目に、次は浴衣も展示できたら良いな～なんて、妄想が広がってばかり。準備等でお忙しい中、ご協力いただいた町内会長のみなさま、太鼓連のみなさま、本当にありがとうございました！花火だけじゃない、みなと祭の魅力、そうそうこれこれ、もっと発信できたらなと思いますので来年もどうぞよろしくお願いします！

文：ビニ

スポットライトの下、低いステージの上

圧倒的マイノリティ。広場に勢ぞろいした踊り子を眺めて、この場は女性の舞台だ、改めてそう思った。そして、だからこそまち協（の男性陣）はこの舞台で踊る必要があったのだとも思った。こんなことを考えていたのは私だけかもしれないが、とにかくこの祭りに参加する港の男…の特に若い世代は太鼓に集まっている。この空気感は地域特有のものだろうし、それを変えなければとは思っていない。が、「周りに男で踊るやつがいないから自分も踊らない」と考えている男児がいるのであれば、もったいない。そのくらい最高の時間だった。昨年は山車を引く手伝いのみで、踊りは雰囲気だけの参加だったが、今年は練習から参加させてもらい、本番は港本町一丁目の人たちに混じって、総踊りの中心に私はいた。踊る前の心地よい緊張感と高揚感、踊りきったあとの達成感。周りを見る余裕なんてなかったが、たくさんの来場者に見られていたのだろうと思うと振り返った今でも体が熱くなる。港区の隆盛とともに発展したこの伝統文化はまさに地域の誇り。太鼓はもちろんかっこいい。それでも、盆踊りに本気で向き合う港の男達の姿も見てみたいのだ。

文：ムー

民踊初心者奮闘記 -vol.21-

「みなと祭も無事終わり」

7月12日の演芸大会も気持ち的には無事に終わり、翌日のみなと土曜市はスタッフ全員が浴衣の装いで過ごすという特別感を醸し出し、みなと祭への気合いは十分入っていたと思われます。今年のみなと祭は快晴とは言いづらい天候の中で行われましたが、個人的には暑くなかったから今年の方がやりやすかった気が。もちろん、雨宿り等で町内を周る時間が押したり、器材の不調が出たり、と雨天時は雨天時で大変だったりしたのですが、やっぱり暑いよりは涼しい方が助かるなぁ…。でも、どれだけ暑くても、どれだけ悪天候でも、盆踊りはやっぱり楽しい。教わったきれいな振りで踊るのも、振りを間違えて仲間内で笑うのも、観に来た方々が恐る恐る踊りの輪に加わり、曲が終わる頃に笑顔になっているのを見るのも、とても楽しい。以前、「外から太鼓の音が聞こえると親に怒られても外に出て、踊りの輪に加わったもんよ」と大先輩が仰っていましたが、その気持ちがよくわかります。踊れる楽しさと、祭りの楽しさ。自分が民踊教室に飛び込もうと思った原点に意図せず戻れた…今年のみなと祭はそんな素敵な気持ちにしてくれました。

文：朔千代

《第七十八号》
発行
港まちづくり協議会
TEL：052-654-8911
発行日
2024年7月

78号の編集部員
大西、マミや、ムー、
朔千代、きなちゃ、
ビニ、イサジ、戸田、
ホットバナナ、
しゅうちゃん、さあち、
林、たもとまさこ

毎月、皆さんの元へお届けしているポットラック新聞かわら版では、まちの方からの記事を募集しています！

例えば
- ●最近ハマっていること
- ●最近うれしかったこと
- ●○月×日の日記
- ●お悩み相談
- ●○○仲間募集
- ●港の思い出話
- ●おいしいグルメ情報
- ●趣味の話（川柳などでも）
- ●行事の話（みなと祭など）

いずれかの方法でお送りください
- ●原稿用紙に書いてポットラックビルに投函、もしくは受付スタッフに手渡し。
- ●原稿用紙に書いてFAXで送信→052-654-8912
- ●メールから→info@minnatomachi.jp
- ●WEBページから→右のQRコードを読み取って送信

本気でやる楽しさ

みなと祭といえば、花火や多くの屋台。いやいや、地域住民にとっては山車や太鼓、盆踊りも同じくらい大切な演目である。まち協に入って初めての祭り行事、私は6月下旬から本番に向けて盆踊りの練習に励んだ。参加させていただいた神頭町は曲数が多く、全て一から覚えるのは簡単ではなかった。楽しく踊ってくれたら良いと言ってくださっていたが、やるからにはきれいに揃う踊り子の一員になりたいと変な熱が入った私は毎日、全力真顔で取り組んだ。初めは師範の後ろで真似をするのに精一杯だったが、振りを覚え始めると楽しくてしょうがない。気が付くと練習へ向かう時に自然とスキップをしてしまうほど夢中になっていた。そうして迎えた本番はいつも通り全力真顔で輪を乱さぬよう踊るのがやっと。それでも、終わった後に「よく覚えたね。」と踊り子さん方からお褒めの言葉をいただきお世辞でも本当に嬉しかった。初めての祭り行事は、本気でやる楽しさを部活動に励んだ中高生ぶりに体感できたかけがえのないものとなった。来年はニコニコで踊れると良いな。　文：マミや

港まち絵日記

イラスト：戸田

港まち俳句　今月の一句

茗荷の子にらめっこして絵手紙に

ひろみ

……茗荷を思い浮かべるだけで唾液がじゅわっと出てきます…。夏は必須ですね！

＊毎月第3土曜日13時半より、港まち俳句の会を開催しています。ご興味ある方は担当：藤井（651－6867）まで。ポットラックビルの不在投句箱もご利用ください。

花より団子

みなと祭のイメージは、やはり花火やたくさんの屋台、多くの人で賑わうそんなお祭りでしょうか。今回初めてまち協の拠点がある港本町一丁目にお邪魔させていただき、山車を引く係や警備をしました。みなと祭に向けて約1ヶ月前から各町内で踊りや太鼓の練習など、本番前から熱気を感じる日々でした。当日の本祭を迎えるとその熱気は100％を超えており、私もその熱気に負けじと全力を出し切り気付けば夜の9時。港本町一丁目の一員となり、花火や屋台を楽しもうとしていた自分がいつのまにか、各町内がこの日にかける想いに引き込まれていました。また、踊れない私を輪の中に入れてくれたり、山車を引く大事な役目などさせていただき、港まちの温かさを直に感じました。来年はもっと輝けるように準備をしていきたいです。　文：きなちゃ

書物のまにまに（3巻）

「泳ぐ！泳ぐ！」

◎今回の推薦図書：『対岸へ。：オーシャンスイム史上最大の挑戦』ダイアナ・ナイアド／三賢社

夏ですね！　夏と言えば海？　ということで、今回ご紹介する本は、四度の挑戦を経て64歳で約180kmにおよぶフロリダ海峡を泳いで横断したダイアナ・ナイアドの自伝です。ナイアドは10歳から水泳を始め、20代のときにオープンウォータースイミング（海や川・湖といった自然の水のなかで行われる長距離水泳競技）の世界に出会います。20代後半にはアメリカ合衆国フロリダ州とキューバ共和国の間にあるフロリダ海峡を横断するという前人未到の挑戦を行いますが、未達成に終わり現役を引退することとなりました。その後、スポーツ・リポーターとして世界中を駆け巡る日々を送りますが、どこか満たされない思いを抱え続けます。60歳を迎え、その理由に気がついたことがフロリダ海峡横断再挑戦の幕開けとなりました。そして、仲間たちとともに目標に挑む日々が始まります。そんな超人的なナイアドですが、その心の中には幼少期から青年期に受けた性的虐待による苦しみがありました。その傷を癒やすまでの長い軌跡や挑戦の日々、魅力あふれる人生について余すことなくつづられています。　文：さあち

かもめくらぶ通信

ヘルプマークとは？

はじめまして。かもめくらぶメンバーのしゅうちゃんと申します。趣味はかもめくらぶに行くことです！　ゲームは趣味を超越し、使命感でやっております（笑）。今回、僕はヘルプマークについて書かせていただきます。ヘルプマークについては、見てくださる方それぞれの価値観や考えがあると思います。僕なりの意見も含まれますので、賛否あるとは思いますが、お付き合いください。ヘルプマークとは、援助や配慮が必要な方が持っています。例えば、僕は統合失調症という精神疾患を持っています。これは、まず外見では判断できません。なので鞄にヘルプマークを付けています。僕は、体が疲れやすい、体の節々が痛くなるなどの症状以外にも、以前はひどい幻聴にも悩まされていましたし、人に見られていないとわかっているのに視線や話す声が怖くて、外に出ることすらままならなかったです。では、ヘルプマークを持っている人を見かけたらどうしたらいいのか。これは次回お話しいたします。（続く）　文：しゅうちゃん（かもめくらぶメンバー）

入院生活

協立病院の入院生活で今までと違ったところは車イスだったことだ。6年前の事故のときも車イスだったが、そのときは筋力がおとろえて、歩けなかったのだ。今回はマジ歩けないのである。メンタルはガタガタである。入院生活は人生で2度目であるが、決して気持ちの良いものではない。最初のころは、点滴、心電図、カテーテルなど、クダにつながれて身動きできない、寝がえりできない最悪の状態だった。ロボット、おもちゃの人形状態、まったく自由がきかない状態であった。真面目にリハビリした成果があって、車イスから歩行器へと進歩した。次は杖を使っての移動訓練となった。そこで初めて歩けるようになったのだ。人間は2本足で歩けるのだと実感した。目から涙がしたたり落ちたことを覚えている。入院生活での一番楽しい時は、食事の時間でした。まだか、まだかといつも待ち望んでいた。これほど食に関して考えたことはなかった。これはある種の教訓だと学んだ。　文：ホットバナナ（かもめくらぶメンバー）

昭和の面影探偵ハヤシ vol.62

「加担」

「特攻隊」と聞くと、「九州や南方」のイメージが強い方も多いと思う。だが、その部隊で用いられた特攻機の中には、ここ名古屋港で製造、あるいは開発が行われた機種も多数含まれていたという。だから、名古屋港も「特攻に加担していた」と言っても過言ではないだろう。名古屋港をはじめ、中部地方には、こうした特攻機等軍用機の製造工場が数多く立地していたため、幾度も空襲の標的となり、軍、民問わず多くの人命が失われた。間接的とはいえ、特攻機は兵士のみならず、民間人の命さえも奪ったのである…。昭和20（1945）年8月15日の終戦から、今年の同日で79年になる。この機会に、もう一度戦争と向き合ってほしい。　文：林

7月のみなと土曜市

「プレおまつり」

はじめまして、7月からまち協の受付スタッフになった戸田です！　約1年前からまち協主催の「みなと土曜市」のボランティアスタッフをしていました。これからは、ボランティアもしながら港まちが楽しいまちだとさらに伝わるような活動をまち協でしていきたいと思います。かわら版では「みなと土曜市」にたくさんの方に来てもらえるよう、毎月のレポートを連載していきます。さて、7月13日の「みなと土曜市」はみなと祭も近いということで、港まちポットラックビル内でみなと祭の写真展示&ワークショップを開催しました。午前中はかき氷を頬張る親子を見かけ、おいしかったのか、ボランティアスタッフに「あげる～」と声をかけていてほっこり。午後はばぁば工房で広告紙を使った星の形の入れ物を作るワークショップに参加しました。最初からつまずいてばかりでしたが、一緒にやりながら教えてもらいました。「一緒にやる」ことが港まちで楽しむ秘訣だと思うので、また出店されたら一緒にやってください！　終わったあとはばぁば工房の方々と記念写真をパシャリ。お買い物だけではない楽しみ方がたくさんあります。ちなみに、みなと祭の展示は地蔵盆まつり（8月17日）まで行っておりますので、皆さんもポットラックビルに遊びに来てください！　文：戸田

地域活動支援センター
かもめくらぶ
港区障害者
基幹相談支援センター

林探偵事務所
この街の昭和に関する調査依頼募集
詳しくは編集部マデ